

# 知道 CHIDO-KAIHO 会報

# 73

編集 知道会広報委員会  
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1  
茨城県立水戸第一高等学校内  
発行人 西野虎之介  
発行日 平成20年10月2日  
通巻 第73号  
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	企画	創立130周年記念事業	1
		あいさつ	2
		記念講演講師プロフィール	5
	同窓会・支部だより	那珂知道会・友部知道会ほか	6

## 創立130周年記念事業 にご参加ください

# 11月22日(土)

## 記念式典…県民文化センター 祝賀会…水戸プラザホテル

本校は、明治11年10月2日に茨城師範学校予備科として開校して以来、今年で130周年を迎えるに至りました。これを記念して、11月22日(土)、県民文化センターで、教職員、在校生、奨学会、知道会の合同により、記念式典を行います。

また、式典に引き続き、水戸プラザホテルで、知道会主催により祝賀会を開催します。今回の祝賀会は、知道会「会員の集い」を130周年記念行事として行うもので、幹事学年（昭52卒、昭62卒、平9卒）の尽力により企画が進められました。特に今回は「水中・水戸一高OBたちの学苑祭」として、イベントの楽しさを共有しようという狙いを前面に打ち出しています。和太鼓演奏や昭和52年卒業年次の制作したDVDの上映に加え、スライド映写、各年代が持ち寄る写真や部活の記録・文集・教科書の展示、果ては懐かしい「焼きそばパン」の配布など、お楽しみが満載で、それぞれが皆様の心を打つことでしょう。会員

の皆様には、多数ご参加をいただきますようご案内いたします。

### 祝賀会出席は会費振込みを

今回の祝賀会は申し込み制となっております。この会報に同封した振込用紙のうち、創立130周年記念祝賀会について出席会費を払込まれた方は、払込みをもって参加申込みとさせていただきます。通常の年度のような葉書による参加受付をしておりませんのでご了承を願います。

#### 〈記念式典〉

期日／平成20年11月22日(土)

9：00受付開始

9：30開式

場所／茨城県民文化センター大ホール（水戸市千波町697）

内容／式典9：30～

記念講演10：50～

講師・神原秀記氏(昭38卒、日立製作所フェロー)

テーマ「明日を担う諸君へ」

#### 〈祝賀会〉

期日／平成20年11月22日(土)

13：30受付開始

14：00開会

場所／水戸プラザホテル（水戸市千波町2078-1）

内容／和太鼓演奏（突風起会）によるオープニング13：45～開会14：00

記念DVD（昭52卒制作）

上映15：00

幹事学年／昭52卒、昭62卒、平9卒

### 代議員会議を開催します

第21回代議員会議を次の通り開催いたします。この会議は本会の議決機関であり、各学年・地域・職域の代議員多数の出席により審議をお願いします。

日時／平成20年11月15日(土)、午後3時

場所／知道会館2階会議室

議題／第57期事業報告、決算報告、会計監査報告

第58期事業計画（案）、予算（案）

その他

今回の会報の封筒には、「水戸一高創立130周年記念祝賀会へのお誘い（おしらせ）」と「振込用紙2通（年会費払込票、創立130周年記念祝賀会出席会費払込票）」が同封されています。

### 水戸一高の創立130周年を祝す

知道会会長 西野虎之介

母校水戸一高は、今秋11月22日をもって輝く創立130周年の佳き日を迎え、慶祝の極みであります。前身校とその源流をさか上ると、明治11年(1878)の茨城師範学校予備学科に立ち至ります。この背景に、新学制の中学校創設案が時期尚早と財政窮迫のため先送りされて、応急に予備学科内に師範コースと中学コースが併設された経緯があります。早くも明治13年に分離独立され、茨城中学校が誕生しています。その後の沿革と伝統については周知の通りです。



改めて、前回創立120周年以降の10年間を顧みますと、経済面では厳しい小泉改革を経て実感なきとはいえ戦後最長景気に恵まれましたが、教育界は少子化の具現と教育改革、分けても脱ゆとり教育に揺れ動きました。この中に在って、水戸一高はいち早く中長期構想を策定すると共に、全県学区の進学重視型単位制への移行を実現しました。わが知道会も母校との連携強化に努める一方、母校・会員情報アクセスのIT化と個人情報保護法の制約を克服して会員名簿平成19年版を刊行し、創立130周年事業展開に備えました。

お陰をもちまして、記念事業募金も3千5百万円台に達し、今回の記念式典と祝賀会はもちろん日本芸術院会員能島征二氏作のモニュメント像も完成、体育館緞帳、年表・記念品等の製作も順調に進

捗致しました。これもひとえに同窓諸兄姉の愛校心のたまものと深く感謝を申し上げます。なお、式典の記念講演にはDNA自動解読装置開発の日立製作所フェロー神原秀記氏(昭38卒)に「明日を担う諸君へ」をお願い致しました。また、モニュメント像は「歩く会」60周年を記念し「わが道をゆく」と銘板を付しました。

水戸一高の校風と伝統は、長い歴史と風雪の時代を彩った校長、生徒達の青春の志と浪漫、卒業生と地域の人達の熱い思いと期待があります。創立130周年を契機に「時代を切り開く気概と感性及び行動」を望みます。

### ごあいさつ

水戸第一高等学校長 五味田 優

この度創立130周年を迎え、盛大に記念式典を挙げることは、本校にとりまして誠に意義深く、大きな喜びであります。



また、この節目の年にあたり、60回目を飾る「歩く会」の記念モニュメントをはじめ、体育館緞帳、100周年後30年間の年表・CDの作成等の記念事業を行うことができますことは、知道会、奨学会ほか関係者の方々のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

本校は、明治11年(1878年)茨城師範学校予備学科として開校して以来、県内随一の歴史と伝統を有する学校としてつねに先駆的な試みをもって本県教育を主導して参りました。この間、3万2千有余の有為な人材を輩出し、卒業生は、広く、政財界、司法・教育、科学・芸術など各界各層で活躍し

てきております。この卒業生の皆様の実績は、在校生の誇りであり、また何よりの励みでもあります。

そして、この恵まれた条件や環境のなかで、980人の在校生は、「至誠一貫」「堅忍力行」の校是の下、真理を愛する学問第一の伝統や自主自立の精神を重んじた自由な校風を受け継ぎ、高い志をもって学習や学校行事、部活動など、文武両面にわたって生き生きとした活動を展開しております。

現在、時代は変革の大きな嵐のなかにはありますが、これまで同様、本校には知徳体バランスのとれたたくましい人材—自己の目標の実現を目指し、社会性と自己決定力を身につけ、社会に貢献できる人材(「水戸一高 中長期構想」平成16年度策定)—を育成することが求められていると思います。この節目の年にあたり、改めて130年の歴史と伝統への自覚を深めるとともに、展望を持って未来を切り開く、そのような契機としたいと願うところであります。

なお一層の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

### 水戸一高創立120年の頃

後藤 卓三(前会長)

創立120年はすでに10年前となった。これを記念してのメイン事業は江山閣の新築であった。



私は創立周年行事には90周年時より参加してきた。特に100周年にはその事業三本柱(同窓会館建設、母校100年史出版、記念行事の実施)の1つである記念行事実行委員長として種々の行事立案、企画、運営に

### 創立130周年記念事業 募金経過報告

昨年6月から展開してまいりました募金活動の結果は、目標額3,000万円に対して9月上旬時点の仮集計で3,500万円に達しており、目標額を大きく上回ることができました。会員の皆様の母校への思いが感じられる成果といえましょう。改めてご協力に感謝を申し上げます。

(募金委員会委員長 田中 功)

区分	金額
卒業年次別個人	2,870万
学年同窓会・サークル有志	160万
職域地域同窓会	470万
その他個人・法人等	50万
合計	3,550万

### 記念モニュメントが完成

創立130周年記念事業のひとつである記念モニュメントが完成し、母校玄関前に設置された。このプロンズ像は日本芸術院会員・能島征二氏の作で、「歩く会」がモチーフになっている。9月24日に行われた除幕式には、西野知道会会長、五味田校長をはじめ多くの生徒が参加し、新たなモニュメントの完成を祝った。



もかかわってきた。が、会館建設の付帯工事として行われ、あまり目立たなかったものに江山閣の増改築工事があった。

この江山閣は昭和20年アメリカ軍の空襲によって本校の建物の一切が消失した際、やはり消失してしまったものであるが、生徒の集会所の必要性を痛感した父兄たちを中心に昭和35年、江山閣は木造平屋建てで復活したのであった。

創立120年を迎える頃この改修された江山閣もいよいよ建て替えの時期をむかえたと判断した学校側とも意見が一致した私達は、その再建築をメイン事業として会員の皆様にうったえ、そのご協力をえ多少の紆余曲折を経つつその実現に踏みきったのであった。設計を引き受けてくれた妹島和世さんは本校昭和50年卒であるが、すでに国際的にも活躍する新進気鋭の建築家として知られていた。

この工事中からかなりの見学者があり、完成時には我が国の複数の建築雑誌がこぞって紹介している。

今でも灯のともったこの総ガラスの建物が夕闇の中に浮かびあがるその姿を見ると、あたかも全体で夜道を照らす進路灯のように見えてくるのが不思議でならない。

## 100周年時の思い出

後藤 直樹 (昭54卒)  
(みとみらい法律事務所弁護士)

母校が創立130周年を迎えると聞いて、感慨深いものがあります。100周年の時期に、私は生徒会長をさせていただきま



した。いろいろな思い出がありますが、そのころ、校歌廃止運動が盛り上がり、模擬裁判の形式で是非を問うという催しがあったことが記憶に残っています。第1校歌は、明治41年に制定され、旧制校時代の雰囲気を残す古風かつ格調高いものではありませんが、反面、時代背景が色濃くにじみでております。そのため、戦後、一時、歌われない時期がありました。ところが、昭和45年頃から2番まで歌われるようになったのです。そこで、歴史的な背景のなかで校歌とは何であるのか意義を問い直すべきではないかとなったのです。校歌については、当時、いろいろな意見が自由、活発に交わされておりました。そこでは、「伝統」と「革新」「進化」をめぐる議論がなされておりました。これらは単純にどちらかを採り、他を切り捨てればよいというものではありません。新しく見えるものでも、その根底には、必ず確固とした伝統が存在していることはまちがいありません。私は、徹底した議論が許される母校の自由な校風こそが、母校の長年の歴史を支えてきた「伝統」そのものではないかと感じています。母校での自由な3年間は、私の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。在校生の皆さんも、自由を味わうとともに責任を自覚し、自らが主人公であるという覚悟をもって、かけがえのない人生を歩んでください。

## 創立130周年を祝う

平成20年度前期生徒会会長  
伊藤麻利奈 (3年)

水戸一高創立130周年おめでとうございます。130周年という記念すべき節目の年に、生徒会長と

してご挨拶させていただくことを大変光栄に思っています。



130年—この長い年月を生きた人間は未だ存在しません。まだ10代を生きる私たちにとって、この歴史の重さは想像を絶するものです。明治・大正・昭和・平成と変動を見せる歴史の中で、水戸一高は戦火を潜り抜け、ここに存在しています。私がこの場に立てるのも、様々な事象が重なり合って創り上げられたからなのだと思うと、水戸一高で学ぶことができるという事実に感銘を受けます。

この学校の卒業生たちはここで多くのことを学び、他では得られない特別な何かを得、そして社会へ多大な貢献をしています。そんな先輩方が私たちと同じように文武両道、至誠一貫・堅忍力行を胸に生活していたことを思うと、私たちにも何かできる、可能性があるのではないかと、と勇気と希望が湧いてきます。伝統は受け継がれ、今に甘んじることなく、過去をも越えていけるよう、私たち生徒は一步ずつ確実に進んでいきますが、さらに良くなるためには、いい意味で昔の歴史を壊し、吸収し、今の世の中に貢献できるよう、もう一度新しい歴史を創り上げていくことが大切なのではないかと、と思います。

校長先生をはじめ諸先生方、卒業生の皆様、そして保護者の皆様。どうぞこれからも「わが道を行く」私たち生徒の足下を照らし、よりよい水戸一高を築き上げていくために、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 130周年を130連の凧で祝う

本校創立130周年にあわせ、守谷市在住の榎本勝男氏(昭27卒)が連凧を水戸市で揚げるべく構想していることは会報72号でお伝えしたとおり。その準備が着々と進み、本番さながらの連凧が形になってきた。1つの凧は長さ30センチほどで、竹の骨が十文字に入る。それを130周年にちなんで130連とし、さらに紅白の凧を18枚加えた148枚のものを2組用意している。全長約200m、先端の高度が150mにも達するというこの凧は、まさに凧の芸術といえよう。

先ごろ機会を得て、利根川での第1回目のテスト飛行に立ち会うことができた。連凧は風を受け、みごとにカーブを描いて青空に浮かんだ。

11月22日の本番では、朝午前8時頃から千波湖畔の護国神社の下、あるいはふれあい広場のあたりで、2組の連凧を揚げる予定である。揚げた後、凧は希望者に配布する。風や天気具合で予定が少し変わってくると思われるので、興味を持たれた方は小生までお問い合わせを願いたい。

また、当日は競技凧である田原凧の模範演技が保存会会員により行われる。これは横長の凧で、一本の揚げ糸により上下左右自在に動かせるもの。その昔、渡辺華山、豊田佐吉の2人が大いに心を動かされたとの記録も残されている。今様に言うなら「日本版ファイターカイト」となるだろうか。いずれもご家族でお楽しみいただければ幸いです。

事業委員長 沼尻 滋 (昭27卒) 記

お問い合わせ電話番号090-4527-5606



平成20年度の本校生徒の活躍はすばらしいものがあった。運動部では、卓球部・陸上部・水泳部・山岳部・弓道部の5部が関東大会に出場した。さらに卓球部は全国大会、陸上部は国体に出場した。硬式野球部も昨年に引き続き夏の県大会ベスト16まで勝ち進んだ。また、文化部は吹奏楽部が関東レベル、生物同好会、放送委員会、クイズ研究会が全国レベルの大会まで進出し、それぞれ活躍した。

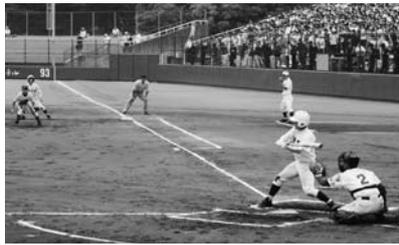
## 卓球部 男子団体 県大会初制覇

卓球部は昨年・一昨年と2年連続で関東大会出場をしているが、ついに本年5月、男子団体で県大会初優勝を果たし、関東大会出場を3年連続とした。ダブルスでは柴田知彦(35)・小野瀬慎二(34)組、シングルスで小野瀬慎二(34)が出場し、それぞれ3回戦まで進出した。

また、全国高校総体(春日部市)にもダブルスで柴田知彦(35)・小野瀬慎二(34)組、シングルスで小野瀬慎二(34)が出場した。小野瀬は3年間で関東大会3回、全国高校総体2回という輝かしい成績を残した。

## 野球部大活躍 2年連続ベスト16

第90回全国高校野球選手権茨城大会が開催され、本校は7月10日に1回戦を行った。相手は笠間高。6:0で勝利し、幸先良いスタートを切った。2回戦は日立一を9:1で撃破し、3回戦は常磐大高を9:2で下して、4回戦に駒を進めた。相手はシード校の霞ヶ浦。前半リードし、このまま行くかと



夏の大会でベスト16に進んだ硬式野球部

思われたが、4:6と逆転され、ベスト16に留まった。創立130周年記念の年にふさわしい全校生が一丸となった応援が展開された。野球部の益々の活躍に期待したい。

## 国際物理オリンピック日本代表候補

物理オリンピックとは高校生を対象とする物理学の国際コンテストであり、国内のコンテストを物理チャレンジと称している。物理チャレンジ2008は全国653名が参加し、地区予選を通過した106名が全国大会(岡山市)で知力を競い合った。本校からは3名が全国に出場し、高橋智将(37)が銀賞、東川翔(22)が銅賞、阿部田将史(21)が奨励賞に輝いた。東川は来年7月にメキシコで行われる国際物理オリンピックの日本代表候補10名に残り、最終審査で代表5名に選ばれる可能性が高い。

## 生物研究コンテスト

来年、日本で初めて開催される「第20回国際生物学オリンピック」を前に、筑波大学で7月24日、「つくば生物研究コンテスト」が開かれ、県内外の中高生らが研究成果を発表するコンテストが開催された。審査の結果、水戸一高生物同好会は金賞に選ばれた。研究

のテーマは「シラカシ林におけるアキノギンショウソウの菌根の形態と菌類の子実体の空間分布」。アキノギンリョウソウは水戸一高の敷地内に分布している無葉緑植物の一種で、昨年より継続研究している。なお、生物オリンピックの予選には生物同好会から2名が出場した。

## 高校生クイズ選手権準決勝進出 テレビ放映 クイズ研究会

日本テレビ主催の全国高校生クイズ選手権に本校クイズ研の3名が出場し、準決勝まで進出して、大活躍した様子が9月5日(金)夜7時から放映され、水戸一高の名を全国に轟かせた。7月20日に西武ドームで行われた地区予選で2年連続茨城代表になり、8月13~17日に東京で全国大会が行われた。各県代表が激突する1回戦50チームの中から抜け出した水戸一は、準決勝まで進出し、第3位になった。キャプテン高橋智将(37)を中心に高星太一(33)、飯島圭祐(35)は合宿を通してまとまったチームとなった。高橋は「計算で負けたくなかった。決勝までいけると思った。」と悔しかったが今後活かしてもらいたい。



高校生クイズ選手権で第3位になった高星太一、高橋智将、飯島圭祐(左から)

## 新刊紹介

知道会事務局に寄せられた本校出身者・関係者の著作を紹介しています



奇跡のリンゴー「絶対不可能」を覆した農家 木村秋則の記録ー

幻冬社  
1,300円(税別)  
石川拓治 著  
(昭54卒)

自然農法家福岡正信に傾倒し、それまで不可能と言われていたリンゴの無農薬栽培を現実にした青森のリンゴ農家木村秋則氏の不屈の人生を描いた著者渾身の一冊。人知・人為を排除し、あくまで自然の力を引き出す発想と努力は、あまりにもエネルギーや化学物質に依存し過ぎた現代農業と人間と自然環境との関わりに警鐘を鳴らす。この本を読みながら、20年ほど前に訪れた万里の長城で、近くの農家の方が売っていた小ぶりの甘酸っぱいリンゴの味を思い出していた。



儂き日常

日本文学館  
1,000円(税別)  
小川 瞳 著  
(平17卒)

家族が皆それぞれ別々に生活しているという特殊な環境(離婚が日常茶飯事となった現代ではありふれた家庭環境なのかもしれない)に育つ男子中学生が主人公。漫然と過ぎる日常生活に突如入り込んできた女性を母親とも知らず、憧れや恐れといった心の揺れを丹念に描いた処女作。ついでこの間高校を卒業したばかりで、ピアニストとしても活躍する著者の今後のマルチ才能の開花を大いに期待したい。



助さん・佐々介 三郎の旅人生

錦正社  
1,600円(税別)  
但野正弘 著  
(昭34卒)

「御老公の御前である。控えおろう。」と悪人たちをひれ伏させるカッコいい助さん。その「助さん」こと佐々介三郎宗淳は、瀬戸内海に生まれ、前半生は僧侶、後半生は水戸藩士として生きた。「大日本史」編纂のための史料蒐集に全国を歩いたことは史実として知られている。40年以上佐々介三郎を研究している著者が、彼の生涯と人物像を分かりやすく紹介する。

## 学苑祭を終えて

第60回学苑祭実行委員長  
桑名 淳一 (31)

去る6月28日(土)、29日(日)の2日間に渡り、第60回学苑祭が開催されました。

今回の学苑祭は長い歴史の中で初めて夏休み前に実施することになり、当初は戸惑いや今後への不安がありました。最終的には学校全体が学苑祭成功という目標に向け準備に熱を入れていました。これも生徒一人一人がこの一大行事に対し強い思い入れを持っていることの表れではないかと思えます。

そして当日の様子ですが、懸念されていた展示規模の縮小は見られず、社会的な内容や大掛かりな仕掛けのある展示、日頃の活動の成果の発表など、各団体が限られた場所と時間の中で個性を出していました。

2日目に大雨が降り、条件は決して良くなかったものの、合計5,000人もの方々に来校していただいたことをはじめ、今回のテーマ「祭、新たなる飛躍」は無事達成できたように思います。今後の在校生には現状に満足せず、学苑祭の更なる発展を目指してほしいと思います。



## 記念講演講師

## 神原秀記氏 プロフィール



1972年日立製作所入社、中央研究所研究員となる。重量分析分野で大きな成果をあげた後、1982年よりDNAシーケンサーなどヒトゲノム計画に大きく寄与する技術開発をスタートさせる。キャピラリー（ガラス毛细管）電気泳動技術に注目し、グループを率いて「マルチシースフロー」「マルチフォーカス」などの高集積化・高感度化の基本技術を次々と発表して常に世界をリードしてきた。

1997年には米国アプライドバイオシステム社と提携して、従来技術を2桁上回る解析速度を有する高スループットDNAシーケンサーを製品化、世界中のゲノム研究機関に採用された。これにより、ヒトゲノム解読は当初計画よりも3年以上加速され、2003年4月には完全解読が成し遂げられた。現在1細胞の中身を分析する技術開発に取り組んでいる。

### 〈略歴〉

1945.1.2 香川県に生まれる  
1963.3 茨城県立水戸第一高等学校卒業  
1967.3 東京大学教養学部基礎科学科卒業  
1972.3 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了  
1972.4 (株)日立製作所 中央研究所 入社

(1977.10～79.1 Visiting Researcher in UC Berkeley, Space Sciences Lab.)

1981.8 同社同研究所 主任研究員  
1985.4 同社基礎研究所 主任研究員  
1989.8 同社同研究所 主管研究員  
1990.2 同社中央研究所 主管研究員  
1994.8 同社同研究所 主管研究員  
2000.2 同社同研究所 技師長  
2003.6 株式会社日立製作所 フェロー (現職)

(2004年4月より 東京農工大学 客員教授)

2005年4月より 東京大学大学院新領域創成科学研究科 客員教授

2008年4月より 首都大学東京 客員教授

### 〈主な受賞歴〉

2001.4 文部科学大臣賞受賞 [蛍光検出型DNA塩基配列決定装置の研究]  
2002.3 大河内記念賞受賞 [キャピラリーアレーDNAシーケンサーの開発]  
2003.5 紫綬褒章受賞 [蛍光式DNAシーケンサーの開発]  
2004.1 朝日賞受賞 [高速DNA解読装置の開発]

## 知道会ホームページがリニューアル！

平成20年9月15日(月)に知道会のホームページをリニューアルいたしました。

西野会長のご挨拶を始め、知道会の沿革、組織形態や各委員会の紹介等を掲載すると共に、「知道会報」のバックナンバーや「新着情報」「行事予定」コーナーも設け、会員の皆様が、知道会の情報をタイムリーに、かつ有効利用できるような作りと致しました。

また、各種知道会団体とのリンクも受付けていますので、積極的にご利用ください。

URL <http://www.chidokai.jp/>



## 母校のますますの発展を

東京知道会会長

小岩井忠道（昭39卒）

母校創立130周年を多くの先輩の皆様とともに心からお祝い申し上げます。先日、世界の自動車メーカーについての新聞記事を読み、そのGMですら100年の歴史しか持たないことを知りました。130年という年月がいかに大きな価値があるか、あらためて実感した次第です。卒業後、母校を訪ねる機会に本城橋を渡りながらいつも思うことがあります。母校が創設されたころ、郷土の若者にかかる期待がいかに大きかったかということです。水戸藩の最重要地である水戸城本丸跡につくられたということは、当時、県でもっとも大きな期待をかけられた施設だったということでしょう。日本政府の教育費支出は、対GDP比で経済協力開発機構（OECD）加盟国中、最低。こんなことが言われる昨今、130年の歴史を持つ学校を卒業し、多くの先輩、同級生、後輩の皆さんと今に至るまで親しく触れあうことができる幸せをつくづく感じます。母校のますますの発展を心から願っております。



## 創立130周年を祝して

西日本水中一高会会長 星野 皓

茨城県立水戸第一高等学校創立130周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。



数多くの歴史が刻み込まれたこの130周年、今此処に大きな節目を迎える事が出来た我々は、誠に幸せ者だと身に沁みて感じます。

振り返りますと私は水中最大の激動期に入学いたしました。昭和20年入学、間もなく動員により磯浜近くの林間での塹壕掘り、8月に空襲で校舎が全焼し、土堤の木陰で焼けトタンを黒板がわりに

しての青空教室、しばらくして37部隊の兵舎を教室にし、南京虫に悩まされながら授業を受けたものでした。

後に本丸の焼け跡にバラックながら校舎が完成、我々一同喜び勇んで懐かしい古巣に帰ってきたのでした。今ではこれらの事も懐かしい思い出です。

特に誇りに思っている事は、水中一高を通して6年間学生生活が出来たのは、永い歴史の中でも昭和20年と21年の2年間に入学した者だけでしょう。旧制中学で入学し新制中学3年で卒業、新制高校へ入学して3年間と通算6年間でした。

さて、現在は西日本水中一高会会長を仰せ付かり、会員増強と資金繰りに頭を悩ましております。会長に就任しての第一の目標に会員間の強い絆を作る為、会報の発行を企画、順調に進んで第5号が10月初旬に発刊されます。

また、会員相互の親睦を深める為、「奈良平城京跡見学ツアー」「天満天神繁昌亭観劇ツアー」「京都散策と裏千家でお茶をいただくツアー」等企画実行して参りました。お陰でご夫婦での参加も増え、和やかなよいムードが生まれてきました。

これからも役員一同知恵を絞って絆固めと会員増強に努力していく所存です。130周年記念の年にあたり、懐かしき学生時代の回想と、西日本水中一高会の現況とこれからの心構えを簡単に記した次第です。

## 那珂湊行餘学会総会

7月12日、2年6ヵ月ぶりの総会が藤屋ホテルで開催された。本部北條事務局長が来賓挨拶の中で、本日母校野球部が快勝し甲子園への道一步前進を報告すると、大きな拍手が起こった。昭和29年8月甲子園のグラウンドに立った菅谷健造会員（昭31卒）は、母校が近い将来県代表になる予感を覚えると語る。出席者一同後輩の躍進を期待する一日となった。

講演の部では川島始会員（昭30卒）が、日立・常陸那珂・大洗・鹿島の4港建設に携わった経験を背景に「茨城の港・あれこれ」のタイトルで演壇に登った。東洋の

ナポリと称された阿字ヶ浦海岸の変容は開発に対する自然の怒りか興味ある講和だった。

総会では毎年開催の規約に違う支部運営を疑問とする意見が出た。宇都宮義会員（昭13卒・茅ヶ崎市在住）は「寄行餘學會今次大会」の漢詩を届け行餘の偉志を鼓舞された。肝に命じて運営に当たることとした。

大和田 一（昭31卒）

## 那珂知道会

那珂知道会（勝山丈夫前会長、会員数209）は、9月7日(日)、那珂市中央公民館において平成20年度総会を開催した。会員52人が出席。来賓には瓜連知道会長の寺門康友氏が出席。予算及び事業計画を承認した後、役員改選を行った。

新しく会長には、飯塚一氏（昭26卒、元旧那珂町助役）が就任。副会長も改選され、綿引則之（昭28卒）、川崎正之（昭30卒）の両氏が新たに就任した。

総会終了後、“武石浩波の生涯”というテーマで、親族の武石亮氏（昭30卒）を講師にお迎えし、日本人民間初飛行家と称される母校の先輩の偉大な業績について講演いただいた。苦難に満ちたアメリカでの生活、日本での初飛行の新聞記事、村をあげての葬儀の様子などを、直筆の手紙や写真、当時の貴重な資料をスライドで紹介しながら1時間30分講演。出席した会員は、母校に建っている銅像を思い起こし、熱心に最後まで聞き入っていた。

会場を移しての懇親会では、あちらこちらで先輩・同期・後輩関係なく、話の輪ができて、はるかな青春の思い出話や武勇伝をお互いに披露しあっていた。最後に全員で校歌を斉唱。来年の再会を約束して散会した。

萩野谷康男（昭49卒）



那珂知道会

## 友部知道会

7月12日(土)午後4時より、笠間市旭町のホテル「パークスガーデン」で、来賓として橋本昌知事、知道会本部の沼尻滋副会長、鯉淵俊郎親睦委員会副委員長のご臨席をいただき、会員45名が出席し盛大に開催された。



友部知道会

友部知道会は、約30年間の活動休止後の再開なので多くの問題点もあったが、本部の北條勝彦事務局長のご助力により、無事総会にこぎ着けた。総会までは永井一郎衛門発起人会長を中心に発起人会を数回にわたり開き、原案を練った。

総会では全ての議案が原案どおり可決された。役員選出では、古河澄夫会長(昭29卒)以下12名の本部役員が承認された。規約もできた。

総会後の親睦会は、最年長の船橋能行氏(昭19卒)の音頭のもと開会され、大変盛り上がった。なにせ30年ぶりの再開ということで、卒業後数十年振りの再開の方々、初対面の方々、近所でも同窓の方とは知らなかったの方々、いずれのテーブルでも話の輪ができた。南秀利副会長(昭31卒)が全体写真と各テーブルの写真を撮ってくれた。来賓の方々も入って頂き、大変良い記念ができた。

幹事 鶴田 信晃(昭39卒)

## 昭和51年卒学年同窓会

昨年の11月10日(土)に開催された知道会総会から1年がたちます。佐々木健(36組)さんが担当の講演会も好評でした。

51年卒の総会参加者は30名でしたが、二次会(31組芳賀君が店長の満月城)の参加者も30名と二次会から参加した同窓も数多くいました。大変お世話になりました。芳賀店長の心遣いもあったことと思いますが、二次会で

43,780円ほど残金が出ました。

残金の処理を考えてきたのですが、幹事の小野瀬君(36組)と相談した結果、水戸一高の士気高揚資金に水戸一高S51年卒有志一同として寄付することにしました。二次会参加の皆様、ご了承ください。

同窓の集まりでは、過去の「思い出」が甦るのではなく、濃密な「感覚」が甦るとメールしてきた同窓もいました。

今回で51年卒の知道会全体での役割も一応終了しました。今後は、学年単位で濃密な「感覚」を楽しもうではありませんか。以上ご報告いたします。

加茂川裕昭(36組)

## 平成元年卒同窓会

6月21日(土)、水戸三の丸ホテルにて、平成元年卒の学年同窓会を開催しました。

発起人代表の大谷君(38組)を中心に、手際よく短期間で準備が進められ、当日は106名もの出席がありました。クラス担任の先生方も9クラス中7名の方に出席いただき、在学当時の話題や近況報告などで、大いに盛り上がりました。二次会は瀬川君(37組)の案内で市内の「ナタリー」へ移動しました(その後、旧友たちとの尽きぬ話に、三次会、四次会と

## 剣道部大同窓会開催のご案内

水戸一高剣道部は戦後の禁止令以外は一貫して活動を続けてきたが、未だ全体を貫く同窓会を開催してこなかった。今般、水戸一高創立130周年を機に水戸一高剣道部に在籍した全卒業生が一堂に会し、大同窓会を開催することを企画したのでお知らせします。詳細は11月末日までに該当者に通知します。

### 1 日時・会場

平成21年1月11日(日)

午後4時より水戸三の丸ホテルにて

### 2 発起人代表

宮田 忠幸(昭29卒)

### 3 問合せ先

水戸一高教頭 小田倉康家(昭45卒)

続いたとか)。

また、当日、130周年記念事業の寄付を募った結果10万円が集まり、寄付させていただきました。

なお、今回の同窓会をきっかけとして、平成元年の卒業生専用のメーリングリストを開設し、同窓会の連絡のほか、さまざまな情報交換を行うこととしました。平成元年卒で未登録の方は、ぜひ、登録手続として、管理者アドレス(mito1\_h1@yahoo.co.jp)あてにクラスと氏名を連絡していただくようお願いします。谷越 敦子

## 創立130周年記念招待試合 硬式野球部OB会水府倶楽部 乾 修(昭41卒)

3年越しの企画、早稲田実業、慶應義塾を招待しての創立130周年記念招待試合は、6月29日(日)、前日深夜から降り出した雨のため中止となりました。

当日、準備のために早朝から駆け付けた、学校関係者、知道会、硬式野球部OB会水府倶楽部、今年から設立された硬式野球部後援会三の丸倶楽部、硬式野球部父母の会の皆様、そして、多くの高校野球のファンの皆様の願いもむなしく、雨足は強くなるばかりで、午前6時には断腸の思いで中止を決断。しかし、このままでは折角の企画がもったいないということになり、慶應義塾野球部上田監督からの「雨でもチームは水戸に行きます」の言葉をいただき、前泊していた早稲田実業のご協力を得て、記念式典だけでも実施しようということとなりました。

記念式典は10時から屋根のある水戸市民球場バックネット裏のスタンドでユニフォーム姿の早稲田実業、慶應義塾、水戸一高各野球部員が着席し、茨城県高校野球連盟会長をはじめとする来賓の方々の列席を得て行われました。式典は水府倶楽部山野幹事長の挨拶、大竹茨城高野連会長の来賓祝辞、3校の校歌斉唱、五味田校長の謝辞と続き、最後に、知道会西野虎之介会長から記念品として、本校野球部の先輩で学生野球の父と慕われる飛田穂洲先生直筆の「一球入魂 快打洗心」が焼かれた笠間焼の絵皿が贈られ、記念撮影で終了いたしました。式典終了後はスタンドにて昼食をとりながら選手間の交流も行われ、夏の選手権大会を前にして選手には大きな財産となりました。

今回招待した両校とは高校野球(中等野球)黎明期から何かと縁がありながら、本校野球部の長き低迷により試合する機会がありませんでしたが、何とか伝統ある両校と試合ができないかとの熱き思いと、復調の兆しを見せ始めた本校の強化を図りたく、実現を目指したもので、茨城新聞をはじめとするすべての全国紙茨城版、スポーツ報知、日刊スポーツをはじめとする各スポーツ誌、ミニコミ誌、水戸市報、茨城放送等多くのマスコミにも取り上げられ、県内の高校野球ファンの期待を膨らませましたことを加筆します。

尚、更なる詳細は以下の水府倶楽部ホームページをご覧ください。www.suifu-club.com

財務委員会

一終身会費制を導入一

知道会活動の源泉は会員の皆様に納入いただいている年会費であり、ご支援なしには計画的・継続的な活動が成り立ちません。財務委員会では会費制のあり方等を総合的に検討してまいりましたが、このたび去る5月24日の第20回代議員会議の承認をいただき、平成20年度第58期（平成20年10月1日から平成21年9月30日）以降、ご高齢の先輩会員の納入手続きを簡便にするため終身会費制を導入する運びとなりましたので、お知らせします。

これは、75歳以上の会員の皆様をご希望される場合には、年会費5年分にあたる1万円を終身会費として納入い

ただくものです。会費の納入時期が到来していない部分を未経過会費（前受金）としてお預かりします。それに伴い、知道会会則の関係条文改正を予定しております。

これに関連しまして、会費の納入状況を見てみますと、残念ながら58歳以下の学年で納入率（納入数／在籍数）が平均を下回っております。終身会費制の導入に伴い、一時的な増収傾向も予測されますが、将来5年間をもって会費をお預かりするものである以上、新たな会員の皆様に継続的に会費をお願いしない限り減収となります。会員の皆様には、今後益々知道会が活発に活動できますよう、引き続き年会費の納入方よろしくお願いたします。

財務委員長 小野 邦夫

おわら風の盆と金沢散策  
第15回知道会親睦旅行報告

9月2～3日、1泊2日の日程で、日本の歴史と文化を訪ねる知道会親睦旅行は、今回、越中八尾おわら風の盆に挑戦した。挑戦と言ったのは、二百十日の風封じと五穀豊穡を祈願して三百年以上の歴史を持つこの伝統行事、11の町内が三日三晩町の通りを唄い踊り流すのだが、雨天の場合、三味線・胡弓・太鼓が使用不能となり、高価な衣装の保護のため、小雨でも中止となる可能性が高いからである。

朝7時半水戸を出発、常磐道・関越・北陸道を通り、富山で早めの夕食を済ませ、次々と観光バスが発着する八尾町民広場を基点に午後5時半から4時間、参加者32名は小グループに分かれて、哀愁の旋律が響く坂の街の随所で、それぞれに意匠を凝らした街流しを満喫した。夕暮れ時降っていた雨も上がって、初めての風の盆挑戦は、母校創立130周年を記念するに相応しい旅となった。

旅の企画運営に当たった親睦委員会の皆さん方に感謝しながら夜10時、無事に水戸帰着した。

和田 由樹（昭36卒）



ゴルフ大会結果報告

知道会恒例のゴルフ大会が去る6月12日(木)に大洗ゴルフ倶楽部でおこなわれました。今回で29回目を迎えた当大会は、母校創立130周年の記念大会でもあり、参加者79名のうち女性5名、秋田高校よりの特別参加者3名と色とりどりでした。当大会は、女性及び65歳以上のシニアの部と65歳未満のレギュラーの部で争われますが今回はベストテンに

シニアの方が7人入られて表彰の際、大変苦勞致しました。結果は以下のとおり。（敬称略）

シニアの部 優勝／大貫 英（昭29卒）

準優勝／入野 善明（昭29卒）

レギュラーの部 優勝／小松崎 潔（昭51卒）

来年度も多数の参加者をお待ち申し上げます。

親睦委員 富永 潤一（昭46卒）

母校創立130周年記念  
第5回OBミニ歩く会

今年もOBミニ歩く会が9月28日に実施されました。ハイキング日和に恵まれ、初秋の清々しい空気の中、総参加人員77名の歩く会になりました。出発に先立ち、



川上先輩（29年卒）から正しい歩き方と靴紐の結び方のご指導を受け、足取りも軽やかに出発。今回は、常陸太田知道会の全面的なバックアップのもと、常陸太田市内の歴史探訪となりました。山吹運動公園をスタートして、ちょっとハードな登り坂を上ると、そこにはもう「山寺の晩鐘」の碑があり、黄金色の稲穂とそばの花に彩られた常陸太田市内を一望することができました。西山の里、源氏川、ラッパ坂、舞鶴城址、昔ながらのたたずまいを残す鯨ヶ丘商店街をめぐり、ゴールとなりました。途中、ヨネビシ醤油さんで土蔵造りの仕込蔵を見学しお醤油のお土産をいただき、ゴールでは新米・巨峰・地酒など太田の秋の味覚が当たる抽選会を行い、解散となりました。川上先輩、常陸太田知道会の皆様、ヨネビシ醤油の高和社長（36年卒）、ほんとうにありがとうございました。いつもながら、たくさんの方々を支えられ、楽しい歩く会になりました。

【事務局から】

記念事業のモニュメントは9月24日に盛大な除幕式を行い、母校の正面玄関前ロータリー内に姿を見せました。知道会会員のご寄付によって設置されたモニュメント「わが道をゆく」はこれから後輩たちに見守られていつまでも心に残るでしょう。時は恒例の「歩く会」（第60回）が間近で、今年はこのモニュメントの前で思い出が作れるでしょう。

さて、これまで多くの会員から貴重なご寄付を寄せていただき事務局として御礼申し上げます。その会員の中に、学年などが特定できない方々がおりますので、右記の方々は事務局まで至急問合せください。不明者は、右記の通り11名です。最終的には、芳名帳を作成しますので、不明の方々は名前が右表の状態で掲載されます。

年月日	氏名	金額	振込先
19.07.10	コバヤシダイスケ	5000	常陽
19.07.12	イイジマヒデオ	10000	常陽
19.07.19	ミトシカサハラチヨウ1	5000	常陽
19.07.19	070604 (S40)	10000	常陽
19.09.28	ワタナベユキオ	10000	常陽
19.11.06	シミズタケシ	10000	常陽
20.05.08	7060400102	5000	常陽
20.05.19	わたひき タカヒサ	5000	常陽
20.05.19	アクツマナブ	5000	常陽
20.06.09	カイノ シロウ	10000	常陽
20.06.11	706040013	10000	